



# 佐渡金銀山 未来に残そう 世界遺産

## 金銀山よもやまばなし(9)

### 大間 港 護岸

相川大間港の護岸は、明治23年(1890)から24年にかけて、宮内省御料局佐渡支庁の命を受け、愛知県出身の左官職人、服部長七の『たたき工法』によって造られました。たたき工法(人造石)とは、敲打、三和土とも書き、消石灰と真砂(風化花崗岩が土壌化したもの、サバ土とも言い、ます)を混ぜて、水で練ってたたき固めたものです。この工法は明治10年代から30年代にかけて、鉄筋コンクリート工法が普及する過渡期において、全国各地の築港、干拓堤防などの土木工事に採用されました。大規模な堤防などに用いるときは、土砂を充填した提体の外側をたたきで形成し、表面には天然石や割石をたたき(練り土)の中に張り込みます。一見石垣のように見えますが、張り込んだ石は接触しておらずたたきの中に浮いているよ

うに造られます。このため、水密性のある強固な護岸が造られました。また、波を緩衝させる曲線断面の構築も比較的容易でした。加えて、年数を経ても十分な強度を保つ耐久性と、火を使わずに固まるという自然環境に対応した工法の優秀性が抜きん出た工法でもありました。冬の日本海の波浪、100年を超える歳月を経ても大間港に現存することがそれを証明しています。たたき工法では練り土を締め、木でたたき締める作業が不可欠であり、工事では人海戦術が常に採られました。服部長七は工事を統率できる人望を備え『資性篤実、品行方正で氣概があり常に意を公益に注ぎ慈悲心が深い』と評される人物で、採算を度外視した工事を請け負うこともありました。名古屋築港工事では、明治31年の



工事入札の際、築港の困難さ比べ利益の伴わないことに全国の土建業者は尻込みし、深野愛知県知事の懇願によって長七が請け負い、結果的に100万円の損失が出たという逸話が残っています。写真の護岸に立つと、51歳の服部長七が大間港築港工事の陣頭指揮を意気軒昂に執る姿が、100年以上を経た今でも目に浮かぶようです。

佐渡金銀山室 ☎ 74-3115

### 『佐渡金銀山室からのお知らせ』

○『第4回 生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史』

日時 7月2日(土)午後1時  
場所 あいかわ開発総合センター

大集會室  
基調講演

『鉱山遺跡が教えてくれること』  
村上 隆 氏

『奈良文化財研究所主任研究官  
講演』

『石見銀山からみた佐渡金銀山』  
仲野義文 氏

『石見銀山資料館芸員』  
鈴木一義 氏

『未公開絵巻にみる佐渡金銀山』  
鈴木一義 氏

『国立科学博物館主任研究官』  
『佐渡金銀山遺跡の現状と展望』  
斎藤本恭 氏

『佐渡市佐渡金銀山室主任』  
『地質及び鉱床より見た佐渡鉱山の歴史』

永松武彦 氏  
(株)ゴールデン佐渡取締役社長

○『佐渡金銀山文化講演会』

日時 7月10日(日)  
会場 金井コミュニケーションセンター

講師 中村賢一郎 氏  
(杉野学園理事長)

・市報さど4月号(No.14)で人口世帯が「平成16年4月1日現在」とあるのは、「平成17年4月1日現在」の誤りでした。  
・市報さどお知らせ版5月号11ページに記載した番組表の一部に誤りがありました。

### おわびと訂正

時間	月	火	水	木	金	土	日
21:00				★			
21:30		CNS番組(ニュース・行政情報等) (再放送)					
		火曜と金曜21:00 うぶ声・お悔やみ(再放送)					
22:00				★			

★印は市からのお知らせ、番組案内、四季の風景、特別番組等

おわびして訂正します。

時間	月	火	水	木	金	土	日
21:00				★			
21:30	★	21:00 うぶ声・お悔やみ (再放送)	★	★	21:00 うぶ声・お悔やみ (再放送)	★	★
22:00				★			

★印は市からのお知らせ、番組案内、四季の風景、特別番組等

